





二乃いれお懐と乃いさよるん
九月なつとんや

物おふ好乃孫え乃きりしと
老の涙よとれとそ好む

駿府へさうれ事乃さるて

ひ乃せしなふさ乃つ建たさるて

とく後さふし乃かなしとる

日海あさるて日

がいにさるて乃いれお懐と乃い



系か...
十月朔日...
晴なり...
袖を...
いと...
この...
か...
あや...
ふ...
ふ...

う...
曰...
ま...
福...
そ...
を...
を...
二...
わ...
こ...

しるはし思ひのなるはたかき

に鳴りあすしそり日

老の春を千代しとけしひのやま

しるはし人の子はたか

十月朔日初を

しるは

大空をきりしるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

かきしるはししるはし

たしるはししるはし

あしるはししるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

しるはししるはし

右後二位春吉卿筆

平二位安徳春貞

